

関連項目：検証改善プラン①

多面的でより正確なアセスメントによる児童理解・大人理解の促進及び活用

目的

子どもの社会的自立をめざして行われる様々な教育活動の基盤となる児童理解や大人理解が従来までは教師の主観的・感覚的な見取りを中心に行われてきました。そこでより正確なアセスメントを行い、効果ある教育活動を行うために従来のものに加えて多面的な方法でアセスメントを行いました。

内容

● アセスメントの重要性を個々の教職員が認識し、共働につなぐ

本来、学校におけるすべての教育活動は児童にとって教育的効果があるものでなければならないと考えます。これは当然のことのように思えますが、現実を振り返ったときそのようになっていないこともしばしば起こっています。それは、その教育活動がある児童にとって有効に機能していないということです。そのようなとき、我々教師はそのことに早く気付く敏感さが必要であり、気付いた後は早くその教育活動を子どもたちの実態に即したものに変わるといふ行動力を持たなければなりません。そのように考えると、すべての教育活動がその対象としている児童（時には保護者）に即したものになっているかということは、個に応ずる、つまり、どれくらい児童や保護者の正確な実態把握が行われた上にその教育活動が行われているかに基づくものであるといえます。そこで本校では教育活動の基盤となるのは児童や保護者の正確な実態把握であるということをすべての教職員が認識し、その重要性を共有することが、協働につながると考えて取り組んでいきました。

● 児童の情意面に関する客観的・科学的アセスメント

アセスメントの重要性については前述しましたが、児童や保護者のアセスメントは従来も行われていましたが、教師の感覚的なアセスメントに頼っていたのが実情でした。しかし、社会の変化に伴い、児童や保護者を取り巻く環境は多様化複雑化しており、私たちがそのことに対応するにはより正確なアセスメントが必要になってきています。そこで本校では教師の感覚的なアセスメントに加えて、児童の情意面を客観的・科学的に調査し、アセスメントしていきました。具体的にはアンケート調査を基に児童の自尊感情や自己他者肯定感を客観的・科学的に分析しました。感覚的なアセスメントと客観的・科学的アセスメントによって児童の実態把握はより多面的で正確なものになり、授業をはじめ、すべての教育活動が児童に適していくようになりました。

● 教師と児童・保護者をつなぐアセスメント及び個別のサポート

従来までの感覚的なアセスメントにおいても改善を加えていきました。本校では教師・児童・保護者を一つのチーム（コアチーム）として捉え、そこで個々に様々な話し合いを進め、個別のサポートに活かしています。また、話し合われた内容はコア会議録（本校独自）に記録し、感覚的なアセスメントにおいてもできるだけ正確性や客観性を持たせるように取り組みました。また、コア会議録において教師個人が日々の実践を振り返ったり、教師が共有する際に役立てたりすることができるようになりました。

成果

本校ではこのようなアセスメントに関わる取組を基に様々な具体的な教育活動を考案し、実践に活かしてきました。そして、3年間の取組によって児童の自尊感情は徐々に、確実に向上することができました。また、児童の自尊感情や肯定感の把握は授業改善にもつながり、自尊感情や肯定感と学力の相関関係も明らかになりました。

教師が児童や保護者などのアセスメントを正確に多面的に行うことができるということは教育活動が児童一人ひとりや集団にとって有効なものになることにつながります。私たちはアセスメントの重要性を認識し、これからも児童や保護者の正確なアセスメントを心掛け、それに基づいた教育活動の推進と改善に努め、より効果的に機能しなくてはならないと考えます。